

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市 灘町 302-1
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 歳をとっても、障害があっても、認知症があっても誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。</p> <p>* 「共に育つ」を目標にスタッフ皆で学ぶ姿勢を大切にしています。『和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所』を意識して支援できるよう努力しています。</p> <p>* ご利用者が自分の力を発揮できる場や楽しみを見つけることができるよう支援しています。</p> <p>* ご利用者同士が馴染みの関係になれるようさりげなく支援しています。</p> <p>* ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。</p> <p>* 医療との連携を大切にしてご家族と相談しながら、出来るだけグループホームで穏やかに過ごせるように努めています。</p> <p>* 季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>人生の最終章の時を「あなたと過ごせて良かった」と言って頂けるような介護のために「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標に掲げている。ケアは一人ではなく、チームで相談し声かけあいながらスタッフ全員が考える方向でケアが行われており、管理者が特に大切にしていることである。職員の姿・所作から醸し出される非言語の状態を利用者は敏感に受け取り、心地よく感じる場面も多い。「職員は常にどうあるべきか?」「利用者の立場だったらどう思い行動するか?」考えたケアを行っている。事業所として看取りにかなり力を注ぎ、「悔いの残らないお世話をさせていただきます」の法人理念をしっかりと組み入れたケアの積み重ねに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	有限会社 ユニット・ワン
(ユニット名)	グループホームユニットいよA棟
記入者(管理者)	
氏名	高橋 知子
評価完了日	平成 28 年 10 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を玄関やフロアーに貼っている。理念を元に「共に育つ」「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標に掲げ、目のつく場所に複数貼っている。会議や朝のミーティング・情報共有ノート・面談等日々の中で繰り返し確認して実践できるように努力している。スタッフ一人ひとりも、自己目標を掲げて取り組んでいる。	
			(外部評価) 理念と併行してスタッフ一人ひとりの自己目標があり、日々のサービスを提供するうえで拠り所として常に立ち戻り意識し取り組んでいる。情報共有ノートは二種類あり、ご家族との連携や医療的な事柄が個別に記録されているものと、研修や看取りのことなど職員間で共有する内容のものがある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へも出来るだけ参加している。近所の庭の花の前で写真を撮らせていただきお話をしたり、散歩中に声をかけて頂くこともある。近隣の方との会話も増えてきている。	
			(外部評価) 町内会に入会し、地域の活動や行事へ利用者と一緒に参加している。以前は高校生との交流もあった。隣の心療内科の看護師や向いの薬局の方とはよく挨拶を交わし、地域の方から相談を受けることもあり、ふれあう機会も多い。管理者は防災会長を中心としたメンバーと13年前から茶会を開催するなど、地域とのつながりを深める努力を重ねている。	今後は事業所職員と地域住民が、幼稚園、小学校、中学校や高校の子供たちと交流できるような行事を協同で企画し、地域密着型の事業所として認識されるようになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議、行事、ボランティア、見学、申し込み等で気軽に入っただけの機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を分かり易く伝えるよう心掛けている。運営推進会議では、GH内での認知症ケアについての取り組みを紹介し、認知症の理解に繋がるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の日常の生活の様子を写真やエピソードで伝えている。スタッフが認知症ケアについて困っているような事例も、地域の方の共感や励ましに勇気づけられ、スタッフのケアへの工夫に繋がっている。運営推進会議で、地域の方が自分の認知症ケアの体験を話して下さる機会がある。地域にとってGHが認知症に関して役割を持てるよう今後も取り組みを広げていきたいと思っている。外部評価の報告、目標（・外出支援 ・看取りへの取り組み）についても経過を報告している。</p> <p>(外部評価) 年6回開催のうち2回は避難訓練を同時に行い、6回目は年間のまとめの意味で参加者から意見等を聞き、次年度に繋げている。特に議題に悩むことはなく、参加メンバーが出席しやすい日程に調整するなど配慮している。会議の中に看取りや認知症についての学習時間を作っており、充実した内容といえる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加して下さる。その場でグループホームの様子を伝えている。月に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告している。定期的にケアマネ連絡会を開催されるが、必ず参加し、情報交換している。GHの新しい取り組みについては、市の担当者に伝え、助言を頂いて取り組みに活かしている。</p> <p>(外部評価) 市の長寿介護課とは、寝具をレンタルする時や主治医と薬局のかかわりの件でアドバイスをもらうなど、連携を密にし課題解決に向け取り組んでいる。地域包括支援センターとは空き状況の情報を共有するなどしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症の理解や介護技術の向上が、身体拘束をしないケアに繋がると考えている。身体拘束をしないケアを目指して勉強会を重ねている。色々対応を工夫しているが、家族と相談し、センサーマットを使用している方もいる。安全の為に特別なベッド柵が必要な場合は、家族と相談し、同意を得て使用している。1階玄関はオートロックになっているが、2階のユニットいよ内は、解放している。</p> <p>(外部評価) 事業所は2階のフロアに2ユニットあり、安全確保重視の観点から1階の玄関はオートロックになっているが、2階の出入り口は自由になっている。利用者が外出したい時には、職員が付き添い自由に行動できるよう努めており利用者も納得している。安眠薬の投薬については、主治医と相談し必要な量をコントロールするなど、利用者の負担にならない範囲で睡眠が保てるよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。GH内研修にて、認知症の理解・接遇・介護技術等繰り返し学ぶ機会を設けている。また、日々のケアの中で気づいたことや困っていること、困難なケアについて、朝のミーティング時に職員間で気軽に話し合える雰囲気大切にしている。必要時は、管理者が個別面談をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要があれば相談に乗れるよう、管理者・ケアマネとして相談機関の確認や制度についての勉強及び研修会への参加を心かけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数にわたり説明をする機会を設けている。契約書の内容を十分に理解していただけるよう時間を取っている。質問にも丁寧に答えられる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の訪問時、運営推進会議、ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接ご利用者の様子や相談事等を伝える時間を取って家族からの要望も聞き取っている。遠方のご家族にも電話で連絡・相談を行い、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 家族が遠方の場合は、利用料の請求時に電話や手紙等で意見などを把握し反映するよう努めている。面会時には事業所での生活の様子の写真を家族に見てもらい感謝されている。転倒の危険性などがある利用者の家族は、転倒防止策を講じてほしいと要望されることもあり、医師と話し合うなどし対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のスタッフ会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、「管理者・長に言ってください。」と日頃より伝えているので、その都度、直接伝えてくれることが多い。職員間で話合ったり、必要に応じ、管理者会で相談し社長に伝えている。職員研修で全職員は社長と面談し、理念等大切な事を再確認したり意見を伝える機会を設けられている。 (外部評価) 事業者内では管理者やホーム長などと気軽に会話し相談できる環境で、面談する機会もありサービスの質の確保や向上のための技術を管理者から学んだりしており、職員は管理者が働きやすい方向に導いてくれることに感謝し業務に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、現場の様々な問題点を月1回の管理者会で社長に報告している。管理者同士も常にコミュニケーションを取り、必要時は相談しながら対応している。年に2回管理者・ホーム長が職員の評価を行い、社長に報告し職員の状態・状況を伝え職場環境・労働条件の整備に努めている。代表者と管理者が協力し、全職員に誕生日のメッセージカードを渡している。ウエルカムボードの設置により、職員の誕生日等を皆で祝いコミュニケーションを深める努力をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社として、職員は年に最低3回以上の外部研修参加を義務付けている。出前研修も企画・参加しており、より外部研修に参加し易いよう配慮している。外部研修の年間予算を決め、意識して研修参加できるようにしている。また、月に1度GH内でもケアの向上に向けた研修を行っている。研修に参加したら研修報告等にて職員間で共有するようにしている。又、職員個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたり、介護技術の指導を随時行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の機会を大切にして積極的に参加している。相互研修にも毎年参加しており、研修後は、研修報告にて情報を職員間で共有している。市内のケアマネの研修時には必ず参加し、情報交換をしている。他グループホームの運営推進会議にも参加して情報を交換してケアの質の向上に役立っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは家族と十分に相談している。本人の今までの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護内容について、家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取っている。入居後も、密に連絡を取りご利用者の様子を伝えたり、家族の要望等を丁寧に聞くことで信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂き、一緒に検討して頂いている。ご本人・ご家族にとって必要なサービスは何かケアマネさんのご意見を丁寧に聞き取っている。家族が直接申し込んでこられた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。入居の前にGHでのショートの利用を勧め、本人と家族にとって必要なサービスについて相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を支援することで、私たちはたくさんの学ぶ機会を頂いていると考えている。支援することで、私たちの方が支援して頂いていると感じることも多い。少しの時間でも大切にしながら日々の関わりの積み重ねの中で信頼関係を築いていけるよう努力している。利用者に「ありがとう」と言ってもらえるだけでなく、スタッフも感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は本人にとってかけがいのない存在である。家族と一緒に本人を支えているという気持ちを常に持ち、家族とのコミュニケーションを大切にしている。面会時には本人の様子を伝えたり、家族の思いを聞きながらお互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所・ものを知り、家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。ご近所の方が面会に来てくれた時はキーパーソンとも連絡を取りながら、大切な時間としている。	
			(外部評価) 利用者から日々の生活中で馴染みの人や場所を聞き出している。また家族から面会時などに利用者の新たな情報を聴くようにしており、追加内容は記録し共有している。家族の協力を得て盆や正月に帰宅し、隣人と思い出話に花を咲かせることもある。また、3階のデイケアで友人や知人と会い会話を楽しんだりすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるよう座る位置を配慮し、さりげなく支援している。認知症の進行に伴って関係性が変化しても、さりげなくスタッフが間に入ることで、温かい雰囲気でも過ごせるよう支援している。利用者同士が馴染みの関係になることで、本人にとってグループホームがより安心できる場所になっていると思う。繰り返しが多い利用者との関わりも、困っている方のお世話をしたいという本人の気持ちを大切にしながら、負担にならないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。入院退居となった場合も、お見舞いに行き、関係を大切にしている。退居後も、ご家族がGHに立ち寄ってくださることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・家族の思いを丁寧に聴き取るようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。又、面会時等又、必要時は連絡を取って本人の思いや希望を家族に伝え、家族のご意向も聞きながら相談している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの健康状態を把握し、一番落ち着いて暮らせる方法を考え支援している。念願のスーパーに買い物に行き、洋服に興味を示し買い物が楽しみになり、次回の外出が待ち遠しい利用者もいるなど、意向に沿えるよう努めている。利用者同士の関係性を重視し、気の合う人、仲の良い人同士の座席を決め、食事の時間などに会話が弾むよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴き取るようにしている。入居後もセンター方式、本人や家族との会話の中で、本人のこれまでの暮らしの情報を増やしていくアセスメントシートを更新している。ケアが困難になった時に、家族に相談することで、新しい情報を頂き本人の理解に繋がることがある。職員全員で共有することでケアの向上につなげる努力をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時に状態の変化等、情報の共有、毎月のケアプランの評価、アセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。状態が不安定な方は、医療との連携・スタッフ間の細かな情報共有の為、記載方法も個別に工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の個別記録時にケアプランの評価を行っている。担当者が毎月の評価を行い、ケアプラン作成時は月に2回のカンファレンスにて、できるだけ沢山の職員の意見を聞きながら担当者とケアマネが計画作成している。家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医からも居宅管理指導にて色々と相談し、指導を頂いている。	
			(外部評価) 家族から意見を聞き取り、職員は主治医に日常の様子を分かりやすく伝え、それに対する医療面のアドバイスを加味し、利用者が元気で生活できるための工夫も盛り込み介護計画を作成している。カンファレンスシートには利用者の言葉も記録され役立っている。管理者は職員に介護記録を見れば〇〇さんと一目でわかるような記録の作成を求めており、職員同士が話し合うなど介護記録の充実に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。朝のミーティング時に日々の変化する情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。個別記録にケアプランの要点を入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人にとって少しでもより良い支援、安心できる支援、家族の状況等を理解し支援することを大切に思っている。看取りをおこなっている家族の状態によっては、こちらから定期的に訪問する等柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人の昔話の中に、懐かしい地域の話が出て来る。本人の思いをよく聞きながら、家族と相談しながら少しでも思いが現実になるよう努力している。地域の方のボランティアを積極的に受け入れを行っている。3階のデイケア利用者との交流も大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医・かかりつけ医・家族と情報の共有が重要と認識している。で きるだけ、本人・家族・職員で受診できるよう配慮しているが、家族 が受診に同行できない時は、前もって家族の意向も十分に把握するよ うにしている。家族のみの受診時には、日常の生活ぶりや状況の変化 等について家族・主治医へ情報提供し、連携に努めている。 (外部評価) 従前のかかりつけ医を尊重し家族の付き添いで受診しており、受診後 は一人ひとりのケアについて、情報共有ノートに事細かく記録し家族 と職員で共有している。歯科医の訪問や皮膚科の往診などもあり、利 用者や家族は安心感がある。インフルエンザの予防接種は全員受けて いるほか、うがいや手洗いを励行するなど感染症予防にも努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、朝のミーティング時やケアノートで共有して いる。必要時はグループホームの看護師と24時間連絡が取れる。 個々の利用者の状態の変化に早期に対応できるよう、職員は常に意識 して観察し、看護師・管理者等に連絡している。訪問診療時は、十分 に時間を取っていただき看護師・主治医と生活の様子、家族の支援状 態等も含め情報交換している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護師・主治医との 連携を大切に考え、病院に向いて医療連携室と連絡を取り、本人の 状態を把握し、ご家族の意向を確認しながら情報収集している。退院 時は、病院に向き、相談員・看護師より退院時の情報提供を直接受 けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、緊急時の対応について、入居時に説明し、ご家族の意 向を伺い同意書を頂いている。入居後も状態に応じて、ご家族の意 向を確認している。7月にGHで看取りを終えた方がいるが、主治医と家 族と事業所が十分に話し合える機会を大切に、家族の事情により自 宅にも何度も訪問して状況説明・相談を行う。大往生の穏やかな最期 であった。 (外部評価) 看取りに対する家族の強い願いもあり、医師をはじめとする医療連携 により事業所内で看取りをすることができ、管理者等職員は、家族か ら感謝の言葉をもらい業務の励みになっている。看取り後は、職員全 員から感想を聞き今後に生かせるようにするなど、職員の心のケアに も配慮している。主治医を中心に家族と密に連絡を取り希望の叶った 悔いの残らないお世話をすることができ、「ありがたかった」「よ かった」「事業所で過ごせたことは幸せだったと思う」など家族から 言ってもらえ、職員にとって最高のご褒美となり次につなげることが できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 運営推進会議を利用して、救命基礎講座を受講している。緊急時対応マニュアルを身近なところに置き、職員が慌てず直に対応できるようにしている。個別に起こり得る緊急時の対応については、日々より対応方法について確認し、速やかに対応できるようにしている。(喘息発作・低血糖)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしてグループホームの利用者や建物の様子を理解して頂いている。地区の防災訓練にも必ず職員が参加している。 (外部評価) 過去の大震災等の体験者からいろいろ教えてもらうことも多く、避難訓練には役立っている。災害時には向いの薬局に最初に連絡し、その後順次近隣に伝達するシステムで連携も取れており安心できる。緊急時の水や米、缶詰などの食糧やおむつ、トイレトペーパーなど生活に欠かせないものは備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者がどのような状態でも大切にされ、安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で月1度の内部研修をはじめ、日々の申し送り時・ミーティングでも繰り返し「和かい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」非言語の重要性についても繰り返し伝えている。必要時は、管理者との個別面談にてスタッフの理解を深める努力をしている。 (外部評価) 食事中に洋服が汚れないようタオルを利用し上着をカバーしたり、食べこぼしはさりげなく拾うなど利用者を尊重したケアに努めている。居室に入る際は必ずノックし声かけをしている。また、重度化した利用者が清拭時に着替えをするなど楽に過ごせる工夫や、優しく髪をとかし本人らしさが保てるよう配慮している。管理者は表情や姿勢等の非言語コミュニケーションを重要視しており、利用者や家族が安心感を持ってくれるような立ち姿や所作について頻繁に話し合う機会を設けケアに生かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮している。「～してみませんか？」等声かけの仕方も気をつけている。「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、表情・しぐさ等言葉に表れにくい気持ちも察しながら、本人の希望を押し量って支援している。安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースで生活できるよう支援し、ゆとりを持って見守っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に相談しながら、その日の服装を選んでいる。スカーフでおしゃれする方もいる。外出時など、特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。レクリエーションとしてお化粧を楽しんだり、本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認したり、匂いについても話題に取り上げ楽しみにしている。好みを聞き、月に一度はお楽しみ献立としている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を丁寧に伝えるようにしている。 (外部評価) 誕生日も兼ねたお楽しみの献立の日もあり、料理が得意な職員が作ったちらし寿司は喜ばれるメニューの一つである。日頃は業者に委託し、栄養バランスを考えたメニューとなっているほか、「パンが食べたい」「栗があるので使いたい」など利用者の要望をメニューに取り入れるなど配慮している。利用者にはできることをできる時に手伝わってもらっており、生活の励みになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録している。日々の食事の状態を把握し、主治医と連携を取りながら、食事の量・形態の変化にも柔軟に対応している。夜間もミニ水筒にお茶を入れいつでも飲めるように準備をしている利用者もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は必ず口腔ケアを個別に行っている。食べる為に口腔内の状態の変化に注意している。変化があった場合は、家族に相談しながら早めに訪問歯科医診療を受け、口腔内が良好に保てるよう支援している。必要な方は、継続して歯科衛生士の口腔ケアを受けており、スタッフも口腔ケアについて指導を受けている。毎日体操時には、口腔体操も取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) できるだけトイレで排泄ができるよう、サインを見逃さないように気を付け、見守り・声掛け・誘導・介助をしている。夜間はポータブルトイレを使用している方も昼間はトイレの使用を支援している。又、失禁が増えてきている方も、軽量失禁のパット使用等で布パンツで過ごせるよう支援している。	
			(外部評価) 入院していた利用者は入居時におむつを使用していることもあるが、事業所はまずトイレでの排泄を優先しており自立に向けた支援に努めている。夜間、頻繁にトイレに行く利用者にもリズムを考慮し「夜は休みましょうね」と声かけするなど職員の優しい心遣いが窺える。職員は排便を訴える利用者を見逃さないよう、一人ひとりをしっかり観察するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り、排便の状態が直ぐに把握できるようにしている。主治医・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬に配慮しスムーズに排便できるよう支援している。牛乳を配達してもらい便秘予防に役立っている方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外は、朝から15時頃まで入浴時間を取っている。個々の体調や状態に応じて声掛けのタイミングにも配慮している。服の着脱や入浴動作等ゆっくりとできる時間を取り、昔話などをしながら、入浴の時間が楽しみの時間となるよう配慮している。	
			(外部評価) 入浴を拒む場合は落ち着いている時や気分のいい時を見計らい、そっと「洗面所に行ってみませんか」などと声かけするなど工夫し、無理強いすることなく楽しんで入浴してもらうよう努めている。毎朝バイタルチェックを行い健康管理に留意するなど、利用者の入浴には十分配慮しており家族も安心している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、個々の心身の状態に応じてその人にあった休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。布団の状態、枕の高さ等にも個々の好みに合わせて細やかに対応している。夜間は、安心して眠れるような声掛け・声のトーンにも配慮して関わるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、その都度直に確認でき、スタッフが個々の服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。服薬の影響が気になる時は、速やかに主治医に伝え対応している。服薬の変更があった場合はケアノート・申し送り時等で必ず共有しその後の心身の変化に気をつけている。薬局の居宅管理指導により、専門的なアドバイスを受けることができたり、薬剤師から主治医へ相談し、利用者にとって負担の少ない処方になるケースがある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で自分の力が活かせる場の配慮・工夫を心掛けている。手伝いに対して、「ありがとうございます」と必ず感謝の言葉を伝え本人の役割が助かっていることを伝えている。自分のアルバムや家族の面会ノート・学習・興味ある本の提供・3階ベランダへの散歩・体を動かす遊び・他ご利用者との関わりの支援等、できるだけ個々の興味ある活動で、身体や心が動く支援を努力している。季節ごとの行事参加(初詣・花見・ドライブ・苺狩り・花火見物・運動会・紅葉狩り等)も日々の会話の中で話題にし、楽しみが持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の良い時には、ドライブにて自然の様子が楽しめるように支援している。地域の行事にも少数ではあるが、参加できるよう努めている。いちご狩りは家族の協力もあり、定着し楽しい行事となっている。去年よりスタッフ2名、利用者2名と少人数で季節の良い時に動物園へ出かけ、活き々とした表情や笑顔を見ることができた。外出が難しい方も、気候の良い時に3階のベランダで風や光を感じてもらう機会を大切にしている。 (外部評価) 3階のベランダからは海が見え、夕日が沈む絶景を眺めることができ、重度化した利用者も状態がいい時は車いすに乗り、職員と一緒にエレベーターで3階に上り満喫している。墓参りや外食、帰宅など家族の協力により馴染みの場所などに行き有意義な時間を過ごすことができている。菜の花や桜の名所までドライブし、甘酒や和菓子などを食しながら花見が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さを理解しているが、現在お金を所持している方はいない。今後、ご希望がある方がいれば、家族と相談しながら支援していきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期にご家族から電話がかかってくる方が数人いる。電話を受ける場所を事務所とし、安全にゆっくりお話しができるよう配慮している。家族からスタッフ宛に手紙を頂いた時は本人と一緒に見ている。年賀状を頂いたら頂いた人についてのお話を楽しむようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをつけっぱなしにせず、活動に応じた空間づくりに気をつけている。場面に応じて色々な音楽を流し、落ち着いた穏やかな雰囲気作りを心がけている。カーテンにて、光の量も調整している。温度・湿度計にて適温を管理しているが、個々により感じ方が違うので、衣類やひざ掛け・肩掛け・湯たんぽ等の調整等をこまめに行い、居心地良い居場所になるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 共用空間の装飾は担当制になっており、季節感あふれるものばかりが常に飾られている。利用者が懐かしく思う曲が流れ、心地よくつい口ずさんでしまいそうになる。昼間は共用空間でゆっくり過ごす利用者が多く、夏は涼しいよう風通しをよくし、冬は暖かく過ごせるようひざ掛けを準備するなど配慮している。また、温度や湿度管理もできており、利用者が快適に過ごせるよう努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。「安心できる自分の居場所」と感じてもらえるよう配慮している。居室内にも安全に配慮して椅子を置き、一人でゆっくり過ごしたり馴染みのご利用者同士で過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族と相談して、本人の馴染みの物を少しずつ揃えていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着き馴染みの部屋になるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 居室には賞状や写真、花笠など馴染みのものがあり、安心した時間が過ごせる部屋となっている。重度化した利用者の居室は、天井や脇に桜の花の写真を貼り心を和ませる配慮をしている。衣類の入れ替えができる利用者は職員や家族と一緒に衣替えを行っている。窓を開けると海やつり船などが眺められ、天候のいい日などは、他の利用者と一緒に夕日をじっくり眺めながら会話などしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。トイレの表示を大きく分かり易くして、直ぐに目につくようにしている。壁際には手すりがあり、手すりを持ってゆっくりと歩く利用者もいる。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市 灘町302-1
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 歳をとっても、障害があっても、認知症があっても誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。</p> <p>* 「共に育つ」を目標にスタッフ皆で学ぶ姿勢を大切にしています。『和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所』を意識して支援できるよう努力しています。</p> <p>* ご利用者が自分の力を発揮できる場や楽しみを見つけることができるよう支援しています。</p> <p>* ご利用者同士が馴染みの関係になれるようさりげなく支援しています。</p> <p>* ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。</p> <p>* 医療との連携を大切にしてご家族と相談しながら、出来るだけグループホームで穏やかに過ごせるように努めています。</p> <p>* 季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>人生の最終章の時を「あなたと過ごせて良かった」と言って頂けるような介護のために「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標に掲げている。ケアは一人ではなく、チームで相談し声かけあいながらスタッフ全員が考える方向でケアが行われており、管理者が特に大切にしていることである。職員の姿・所作から醸し出される非言語の状態を利用者は敏感に受け取り、心地よく感じる場面も多い。「職員は常にどうあるべきか?」「利用者の立場だったらどう思い行動するか?」考えたケアを行っている。事業所として看取りにかなり力を注ぎ、「悔いの残らないお世話をさせていただきます」の法人理念をしっかりと組み入れたケアの積み重ねに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホームユニットいよ B棟

記入者(管理者)

氏名 高橋 知子

評価完了日

平成 28年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を玄関やフロアーに貼っている。理念を元に「共に育つ」「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標に掲げ、目のつく場所に複数貼っている。会議や朝のミーティング・情報共有ノート・面談等日々の中で繰り返し確認して実践できるように努力している。スタッフ一人ひとりも、自己目標を掲げて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 理念と併行してスタッフ一人ひとりの自己目標があり、日々のサービスを提供するうえで拠り所として常に立ち戻り意識し取り組んでいる。情報共有ノートは二種類あり、ご家族との連携や医療的な事柄が個別に記録されているものと、研修や看取りのことなど職員間で共有する内容のものがある。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へも出来るだけ参加している。近所の庭の花の前で写真を撮らせていただきお話をしたり、散歩中に声をかけて頂くこともある。近隣の方との会話も増えてきている。</p> <p>(外部評価) 町内会に入会し、地域の活動や行事へ利用者と一緒に参加している。以前は高校生との交流もあった。隣の心療内科の看護師や向いの薬局の方とはよく挨拶を交わし、地域の方から相談を受けることもあり、ふれあう機会も多い。管理者は防災会長を中心としたメンバーと13年前から茶会を開催するなど、地域とのつながりを深める努力を重ねている。</p>	<p>今後は事業所職員と地域住民が、幼稚園、小学校、中学校や高校の子供たちと交流できるような行事を協同で企画し、地域密着型の事業所として認識されるようになることを期待したい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、行事、ボランティア、見学、申し込み等で気軽に入ってもらえる機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を分かり易く伝えるよう心掛けている。運営推進会議では、GH内での認知症ケアについての取り組みを紹介し、認知症の理解に繋がるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の日常生活の様子を写真やエピソードで伝えている。スタッフが認知症ケアについて困っているような事例も、地域の方の共感や励ましに勇気づけられ、スタッフのケアへの工夫に繋がっている。運営推進会議で、地域の方が自分の認知症ケアの体験を話して下さる機会がある。地域にとってGHが認知症に関して役割を持てるよう今後も取り組みを広げていきたいと思っている。外部評価の報告、目標（・外出支援　・看取りへの取り組み）についても経過を報告している。</p> <p>(外部評価) 年6回開催のうち2回は避難訓練を同時に行い、6回目は年間のまとめの意味で参加者から意見等を聞き、次年度に繋げている。特に議題に悩むことはなく、参加メンバーが出席しやすい日程に調整するなど配慮している。会議の中に看取りや認知症についての学習時間を作っており、充実した内容といえる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加してくださる。その場でグループホームの様子を伝えている。月に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告している。定期にケアマネ連絡会を開催されるが、必ず参加し、情報交換している。GHの新しい取り組みについては、市の担当者に伝え、助言を頂いて取り組みに活かしている。</p> <p>(外部評価) 市の長寿介護課とは、寝具をレンタルする時や主治医と薬局のかかわりの件でアドバイスをもらうなど、連携を密にし課題解決に向け取り組んでいる。地域包括支援センターとは空き状況の情報を共有するなどしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症の理解や介護技術の向上が、身体拘束をしないケアに繋がると考えている。身体拘束をしないケアを目指して勉強会を重ねている。色々対応を工夫しているが、それでも安全の為に特別なベッド柵が必要な場合は、家族と相談し、同意を得て使用している。1階玄関はオートロックになっているが、2階のユニットいよ内は、解放している。</p> <p>(外部評価) 事業所は2階のフロアに2ユニットあり、安全確保重視の観点から1階の玄関はオートロックになっているが、2階の出入り口は自由になっている。利用者が外出したい時には、職員が付き添い自由に行動できるよう努めており利用者も納得している。安眠薬の投薬については、主治医と相談し必要な量をコントロールするなど、利用者の負担にならない範囲で睡眠が保てるよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。GH内研修にて、認知症の理解・接遇・介護技術等繰り返し学ぶ機会を設けている。また、日々のケアの中で気づいたことや困っていること、困難なケアについて、朝のミーティング時に職員間で気軽に話し合える雰囲気大切にしている。必要時は、管理者が個別面談をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要があれば相談に乗れるよう、管理者・ケアマネとして相談機関の確認や制度についての勉強及び研修会への参加を心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数にわたり説明をする機会を設けている。契約書の内容を十分に理解していただけるよう時間を取っている。質問にも丁寧に答えられる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の訪問時、運営推進会議、ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接ご利用者の様子や相談ごと等を伝える時間を取って家族からの要望も聞き取っている。遠方のご家族にも電話で連絡・相談を行い、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 家族が遠方の場合は、利用料の請求時に電話や手紙等で意見などを把握し反映するよう努めている。面会時には事業所での生活の様子の写真を家族に見てもらい感謝されている。転倒の危険性などがある利用者の家族は、転倒防止策を講じてほしいと要望されることもあり、医師と話し合うなどし対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回のスタッフ会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、「管理者・長に言ってください。」と日頃より伝えているので、その都度、直接伝えてくれることが多い。職員間で話合ったり、必要に応じ、管理者会で相談し社長に伝えている。</p> <p>(外部評価) 事業者内では管理者やホーム長などと気軽に会話し相談できる環境で、面談する機会もありサービスの質の確保や向上のための技術を管理者から学んだりしており、職員は管理者が働きやすい方向に導いてくれることに感謝し業務に励んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、現場の様々な問題点を月1回の管理者会で社長に報告している。管理者同士も常にコミュニケーションを取り、必要時は相談しながら対応している。年に2回管理者・ホーム長が職員の評価を行い、社長に報告し職員の状態・状況を伝え職場環境・労働条件の整備に努めている。代表者と管理者が協力し、全職員に誕生日のメッセージカードを渡している。ウエルカムボードの設置により、職員の誕生日等を皆で祝いコミュニケーションを深める努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 会社として、職員は年に最低3回以上の研修参加を義務付けている。出前研修も企画・参加しており、より外部研修に参加し易いよう配慮している。外部研修の年間予算を決め、意識して研修参加できるようにしている。また、月に1度GH内でもケアの向上に向けた研修を行っている。研修に参加したら研修報告等にて職員間で共有するようにしている。又、職員個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたり、介護技術の指導を随時行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 外部研修の機会を大切にして積極的に参加している。相互研修にも毎年参加しており、研修後は、研修報告にて情報を職員間で共有している。市内のケアマネの研修時には必ず参加し、情報交換をしている。他グループホームの運営推進会議にも参加して情報を交換してケアの質の向上に役立っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは家族と十分に相談している。本人の今までの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護内容について、家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取っている。入居後も、密に連絡を取りご利用者の様子を伝えたり、家族の要望等を丁寧に聞くことで信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂き、一緒に検討して頂いている。ご本人・ご家族にとって必要なサービスは何かケアマネージャーのご意見を丁寧に聞き取っている。家族が直接申し込んでこられた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。入居の前にGHでのショートの利用を勧め、本人と家族にとって必要なサービスについて相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を支援することで、私たちはたくさんの学ぶ機会を頂いていると考えている。支援することで、私たちの方が支援して頂いていると感じることも多い。少しの時間でも大切にしながら日々の関わりの積み重ねの中で信頼関係を築いていけるよう努力している。利用者に「ありがとう」と言ってもらえるだけでなく、スタッフも感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は本人にとってかけがいのない存在である。家族と一緒に本人を支えているという気持ちを常に持ち、家族とのコミュニケーションを大切にしている。面会時には本人の様子を伝えたり、家族の思いを聞きながらお互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所やものを知り、家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。3階のデイケア利用者に昔からの友人がいる利用者は、デイケアスタッフとも連携を取りながら、会える機会を大切にしている。お孫さんが、「おばあちゃんの匂いです。」と自宅から香水を持って来て匂いを楽しんでいる方もいる。 (外部評価) 利用者から日々の生活中で馴染みの人や場所を聞き出している。また家族から面会時などに利用者の新たな情報を聴くようにしており、追加内容は記録し共有している。家族の協力を得て盆や正月に帰宅し、隣人と思い出話に花を咲かせることもある。また、3階のデイケアで友人や知人と会い会話を楽しんだりすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるよう座る位置を配慮し、さり気なく支援している。認知症の進行と伴に関係性が変化しても、さりげなくスタッフが間に入ることで、温かい雰囲気でも過ごせるよう支援している。利用者同士が馴染みの関係になることで、本人にとってグループホームがより安心できる場所になっていると思う。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。法要が終わったと伝えにGHに来てくれることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・家族の思いを丁寧に聴き取るようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。又、面会時等又、必要時は連絡を取って本人の思いや希望を家族に伝え、家族のご意向も聞きながら相談している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの健康状態を把握し、一番落ち着いて暮らせる方法を考え支援している。念願のスーパーに買い物に行き、洋服に興味を示し買い物が楽しみになり、次回の外出が待ち遠しい利用者もいるなど、意向に沿えるよう努めている。利用者同士の関係性を重視し、気の合う人、仲の良い人同士の座席を決め、食事の時間などに会話が弾むよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴き取るようにしている。入居後もセンター方式、本人や家族との会話の中で、本人のこれまでの暮らしの情報を増やしていくアセスメントシートを更新している。ケアが困難になった時に、家族に相談することで、新しい情報を頂き本人の理解に繋がることがある。職員全員で共有することでケアの向上につなげる努力をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時に状態の変化等、情報の共有、毎月のケアプランの評価、アセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。状態が不安定な方は、医療との連携・スタッフ間の細かな情報共有の為、記載方法も個別に工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の個別記録時にケアプランの評価を行っている。担当者が毎月の評価を行い、ケアプラン作成時は月に2回のカンファレンスにて、できるだけ沢山の職員の意見を聞きながら担当者とケアマネが計画作成している。家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医からも居宅管理指導にて色々と相談し、指導を頂いている。 (外部評価) 家族から意見を聞き取り、職員は主治医に日常の様子を分かりやすく伝え、それに対する医療面のアドバイスを加味し、利用者が元気で生活できるための工夫も盛り込み介護計画を作成している。カンファレンスシートには利用者の言葉も記録され役立っている。管理者は職員に介護記録を見れば〇〇さんと一目でわかるような記録の作成を求めている、職員同士が話し合うなど介護記録の充実に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。言葉の無い方も表情や体の動き、全身状態について観察し記録するようにしている。朝のミーティング時に日々の変化する情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。個別記録にケアプランの要点を入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人にとって少しでもより良い支援、安心できる支援、又、家族の状況等を理解し支援することを大切に思っている。入院時の支援は、家族の状況を把握し、十分に相談しながら、医療等関係機関とも連携しながら、柔軟な支援に取り組む努力をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人の昔話の中に、懐かしい地域の話が出て来る。本人の思いをよく聞きながら、家族と相談しながら少しでも思いが現実になるよう努力している。地域の方のボランティアを積極的に受け入れを行っている。3階のデイケア利用者との交流も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医・かかりつけ医・家族と情報の共有が重要と認識している。で きるだけ、本人・家族・職員で受診できるよう配慮しているが、家族 が受診に同行できない時は、前もって家族の意向も十分に把握するよ うにしている。家族のみの受診時には、日常の生活ぶりや状況の変化 等について家族・主治医へ情報提供し、連携に努めている。 (外部評価) 従前のかかりつけ医を尊重し家族の付き添いで受診しており、受診後 は一人ひとりのケアについて、情報共有ノートに事細かく記録し家族 と職員で共有している。歯科医の訪問や皮膚科の往診などもあり、利 用者や家族は安心感がある。インフルエンザの予防接種は全員受けて いるほか、うがいや手洗いを励行するなど感染症予防にも努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、朝のミーティング時やケアノートで共有して いる。必要時はグループホームの看護師と24時間連絡が取れる。 個々の利用者の状態の変化に早期に対応できるよう、職員は常に意識 して観察し、看護師・管理者等に連絡している。訪問診療時は、十分 に時間を取っていただき看護師・主治医と生活の様子、家族の支援状 態等も含め情報交換している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護師・主治医との 連携を大切に考え、病院に出向いて医療連携室と連絡を取り、本人の 状態を把握し、ご家族の意向を確認しながら情報収集している。必要 時は、洗濯物の管理等もお手伝いすることもある。退院時は、病院に 出向き、相談員・看護師より退院時の情報提供を直接受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、緊急時の対応について、入居時に説明し、ご家族の意 向を伺い同意書を頂いている。入居後も状態に応じて、ご家族の意向 を確認している。5月にGHで看取りを終えた方がいる。主治医と家族 と事業所が十分に話し合える機会を大切に、スタッフ間でも情報の 共有を密にし等一したケアに努める。穏やかな最期であった。 (外部評価) 看取りに対する家族の強い願いもあり、医師をはじめとする医療連携 により事業所内で看取りをすることができ、管理者等職員は、家族か ら感謝の言葉をもらい業務の励みになっている。看取り後は、職員全 員から感想を聞き今後に生かせるようにするなど、職員の心のケアに も配慮している。主治医を中心に家族と密に連絡を取り希望の叶った 悔いの残らないお世話をすることができ、「ありがたかった」「よ かった」「事業所で過ごせたことは幸せだったと思う」など家族から 言ってもらえ、職員にとって最高のご褒美となり次につなげることが できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 運営推進会議を利用して、救命基礎講座を受講している。緊急時対応マニュアルを身近なところに置き、職員が慌てず直に対応できるようにしている。個別に起こり得る緊急時の対応については、日頃より対応方法について意識し、慌てずに対応できるようにしている。(意識喪失・低血糖・てんかん発作等)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしてグループホームの利用者や建物の様子を理解して頂いている。地区の防災訓練にも必ず職員が参加している。 (外部評価) 過去の大震災等の体験者からいろいろ教えてもらうことも多く、避難訓練には役立っている。災害時には向いの薬局に最初に連絡し、その後順次近隣に伝達するシステムで連携も取れており安心できる。緊急時の水や米、缶詰などの食糧やおむつ、トイレトペーパーなど生活に欠かせないものは備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者がどのような状態でも大切にされ、安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で月1度の内部研修をはじめ、日々の申し送り時・ミーティングでも繰り返し「和かい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」非言語の重要性についても繰り返し伝えている。必要時は、管理者との個別面談にてスタッフの理解を深める努力をしている。 (外部評価) 食事中に洋服が汚れないようタオルを利用し上着をカバーしたり、食べこぼしはさりげなく拾うなど利用者を尊重したケアに努めている。居室に入る際は必ずノックし声かけをしている。また、重度化した利用者が清拭時に着替えをするなど楽に過ごせる工夫や、優しく髪をとかし本人らしさが保てるよう配慮している。管理者は表情や姿勢等の非言語コミュニケーションを重要視しており、利用者や家族が安心感を持ってくれるような立ち姿や所作について頻繁に話し合う機会を設けケアに生かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮している。「～してみませんか？」等声かけの仕方もう気をつけている。「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、表情・しぐさ等言葉に表れにくい気持ちも察しながら、本人の希望を推し量って支援している。安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースで生活できるよう支援し、ゆとりを持って見守っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に相談しながら、その日の服装を選んでいる。外出時など、特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。レクレーションとしてお化粧を楽しんだり、本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認したり、匂いについても話題に取り上げ楽しみにしている。好みを聞き、月に一度はお楽しみ献立としている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を丁寧に伝えるようにしている。 (外部評価) 誕生日も兼ねたお楽しみの献立の日もあり、料理が得意な職員が作ったちらし寿司は喜ばれるメニューの一つである。日頃は業者に委託し、栄養バランスを考えたメニューとなっているほか、「パンが食べたい」「栗があるので使いたい」など利用者の要望をメニューに取り入れるなど配慮している。利用者にはできることをできる時に手伝ってもらっており、生活の励みになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録している。日々の食事の状態を把握し、主治医と連携を取りながら、食事の量・形態の変化にも柔軟に対応している。夜間もストロー付のコップやフタ付きのコップ等にお茶を入れ、好きな時に飲めるようにしている方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昼・夕は必ず口腔ケアを個別に行っている。朝食後も臥床する方は必ず行っている。食べる為に口腔内の状態の変化に注意している。変化があった場合は、家族に相談しながら早めに訪問歯科医診療を受け、口腔内が良好に保てるよう支援している。必要な方は、継続して歯科衛生士の口腔ケアを受けており、スタッフも口腔ケアについて指導を受けている。毎日体操時には、口腔体操も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) できるだけトイレで排泄ができるよう、見守りや介助を行っている。夜間はポータブルトイレを使用している方も昼間はトイレの使用を支援している。夜間オムツに高吸収パットを使用していた方も、小パットに変更し2時間ごとのパットの確認を行い気持ちよく過ごせるように支援している。</p> <p>(外部評価) 入院していた利用者は入居時におむつを使用していることもあるが、事業所はまずトイレでの排泄を優先しており自立に向けた支援に努めている。夜間、頻繁にトイレに行く利用者にもリズムを考慮し「夜は休みましょうね」と声かけするなど職員の優しい心遣いが窺える。職員は排便を訴える利用者を見逃さないよう、一人ひとりをしっかり観察するよう努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便チェック表を作り、排便の状態が直ぐに把握できるようにしている。主治医・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬に配慮しスムーズに排便できるよう支援している。牛乳を配達してもらい便秘予防に役立っている方もいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 日曜日以外は、朝から15時頃まで入浴時間を取って、個々の体調や状態に応じて入浴時間も配慮している。服の着脱や入浴動作等ゆっくりとできる時間を取り、昔話などをしながら、入浴の時間が楽しみの時間となるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 入浴を拒む場合は落ち着いている時や気分のいい時を見計らい、そっと「洗面所に行ってみませんか」などと声かけするなど工夫し、無理強いすることなく楽しんで入浴してもらうよう努めている。毎朝バイタルチェックを行い健康管理に留意するなど、利用者の入浴には十分配慮しており家族も安心している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中は、個々の心身の状態に応じてその人にあった休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。布団の状態、枕の高さ等にも個々の好みに合わせて細やかに対応している。夜間は、安心して眠れるような声掛け・声のトーンにも配慮して関わるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、その都度直に確認でき、スタッフが個々の服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。服薬の影響が気になる時は、速やかに主治医に伝え対応している。服薬の変更があった場合はケアノート・申し送り時等で必ず共有しその後の心身の変化に気をつけている。薬局の居宅管理指導により、専門的なアドバイスを受けることができたり、薬剤師から主治医へ相談し、利用者にとって負担の少ない処方になるケースがある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で自分の力が活かせる場の配慮・工夫を心掛けている。手伝いに対して、「ありがとうございます」と必ず感謝の言葉を伝え本人の役割が助かっていることを伝えている。自分のアルバムや家族の面会ノート・学習・興味ある本の提供・3階ベランダへの散歩・体を動かす遊び・他ご利用者との関わりの支援等、できるだけ個々の興味ある活動で、身体や心が動く支援を努力している。季節ごとの行事参加(初詣・花見・ドライブ・苺狩り・花火見物・運動会・紅葉狩り等)も日々の会話の中で話題にし、楽しみが持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の良い時には、ドライブにて自然の様子が楽しめるように支援している。地域の行事にも少数ではあるが、参加できるよう努めている。いちご狩りは家族の協力もあり、定着し楽しみな行事となっている。去年よりスタッフ2名、利用者2名と少人数で季節の良い時に動物園へ出かけ、活き々とした表情や笑顔を見ることが出来る。家族の協力により、外出の機会が増えている人もいる。外出が難しい方も、気候の良い時に3階のベランダで風や光を感じてもらおう機会を大切にしている。 (外部評価) 3階のベランダからは海が見え、夕日が沈む絶景を眺めることができ、重度化した利用者も状態がいい時は車いすに乗り、職員と一緒にエレベーターで3階に上り満喫している。墓参りや外食、帰宅など家族の協力により馴染みの場所などに行き有意義な時間を過ごすことができている。菜の花や桜の名所までドライブし、甘酒や和菓子などを食しながら花見が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人と相談して、ご本人で自由に管理している方がいる。買い物時には自分で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から荷物が届いたらお礼の電話をできるよう支援している。自室でゆっくりお話しができるよう配慮している。家族からスタッフ宛へ手紙を頂いた時は本人と一緒に見ている。年賀状を頂いた人についてのお話を一緒に楽しむようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをつけっぱなしにせずに、活動に応じた空間づくりに気をつけている。場面に応じて色々な音楽を流し、落ち着いた穏やかな雰囲気作りを心がけている。カーテンにて、光の量も調整している。温度・湿度計にて適温を管理しているが、個々により感じ方が違うので、衣類やひざ掛け・肩掛け・湯たんぼ等の調整等をこまめに行い、居心地良い居場所になるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 共用空間の装飾は担当制になっており、季節感あふれるものばかりが常に飾られている。利用者が懐かしく思う曲が流れ、心地よくつい口ずさんでしまいそうになる。昼間は共用空間でゆっくり過ごす利用者が多く、夏は涼しいよう風通しをよくし、冬は暖かく過ごせるようひざ掛けを準備するなど配慮している。また、温度や湿度管理もできており、利用者が快適に過ごせるよう努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。廊下に椅子を置き、歩行練習中にも一休みしてスタッフとゆっくり話せるような居場所作りや、居室内も家族と相談しながら、冷蔵庫やラジカセを置き、本人の意向に沿った空間になるよう支援している。好きなスポーツ観戦が見やすい席や夫婦で一緒に過ごせるような席の位置になるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族と相談して、本人の馴染みの物を少しづつ揃えていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着き馴染みの部屋になるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 居室には賞状や写真、花笠など馴染みのものがあり、安心した時間が過ごせる部屋となっている。重度化した利用者の居室は、天井や脇に桜の花の写真を貼り心を和ませる配慮をしている。衣類の入れ替えができる利用者は職員や家族と一緒に衣替えを行っている。窓を開けると海やつり船などが眺められ、天候のいい日などは、他の利用者と一緒に夕日をじっくり眺めながら会話などしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。トイレの表示を大きく分かり易くして、直ぐに目につくようにしている。</p>	